報告

外国人留学生の日本語学習における躓きの調査

――大阪観光大学別科生へのアンケート調査から――

The Survey for Stumbling Block of Foreign Students Studying Japanese Language: From the Survey to Students at Institute of Japanese Language, Osaka University of Tourism

丸山真輝*　島田良幸*　上田直人*　木尾一智*　宮原千咲*
MARUYAMA Naoki, SHIMADA Yoshiyuki, UEDA Naoto, KIO Kazunori, MIYAHARA Chisaki

This study aims to explore the student's stumbling block at the Institute of Japanese Language, Osaka University of Tourism. The study was conducted through a survey using Google Forms. The results indicate that the students generally feel uncomfortable with skills such as “speaking” and “listening” both in and out of class, however they don’t generally feel uncomfortable with “reading” and “writing” . We will consider the results of these questionnaires as a reference for (planning) future educational activities for not only the students and for but also our school’s education from now on.

キーワード：外国人留学生（foreign students）、躓き（stumbling block）、4 技能（four skills of the language）、不自由さ（inconvenience）

1.　はじめに

2020 年初頭に流行した新型コロナウイルスにより、日本に留学する学生数は一時減少したものの、2023 年現在はまたかつての増加傾向へと戻って来ている。この間、非漢字圏学習者を中心に全国的に留学生数が増加したことにより、漢字の理解や運用はもとより日本語学習での 4 技能(読む・聞く・話す・書く)の運用において、一種の躓きを持った学生も増加していると想定される。

外国人留学生の日本語学習状況については、「私費外国人留学生生活実態調査」（日本学生支援機構 2022）において、4 技能についての記述は特に見当たらないものの、それに関連する項目として、「留学後の苦労」についての質問項目では、「学内で日本人と交流できないこと」や、「教員や職員とコミュニケーションがとれないこと」を、「苦労」と表現し回答しているデータはあり、これらに対する一定数の回答もあった。

そこで本稿では、この「日本語学習における躓き」を「日本語学習における特定の技能の運用に際し不自由さを感じること」と定義し、これを明らかにする調査を実施した。また、この調査により当別科における外国人留学生(日本語学習者)の授業内外における日本語の不自由さの状況を明らかにすることを試みた。そして、これにおける学習や行動に対する躓きへの早期対応の方法と支援の効果について検討しながら今後の支援のあり方を明らかにする。

本調査が今後の本学別科の留学生への教育活動においても参考になると考えている。

なお、アンケート結果の公表にあたっては、回答者の特定につながらないよう配慮するとともに表現を工夫した。

2.　調査目的・方法

当別科における外国人留学生（日本語学習者）のアンケートをもとに、日常場面や学習場面にどのような点で躓きが現れるのかを探った。授業のカリキュラム作成や教材選定の際に、ニーズを的確に認識し、今後のカリキュラムや教材の見直し、また支援の在り方へつなげる一歩として調査を実施した。

*大阪観光大学別科/日本語教育学

(1) 調査期間

2023 年 10 月 30 日～11 月 5 日の期間に調査を行った。

(2) 調査方法

大阪観光大学別科の留学生に対して、Google フォームによるオンラインアンケートを実施した。無記名式で回答を求めた。

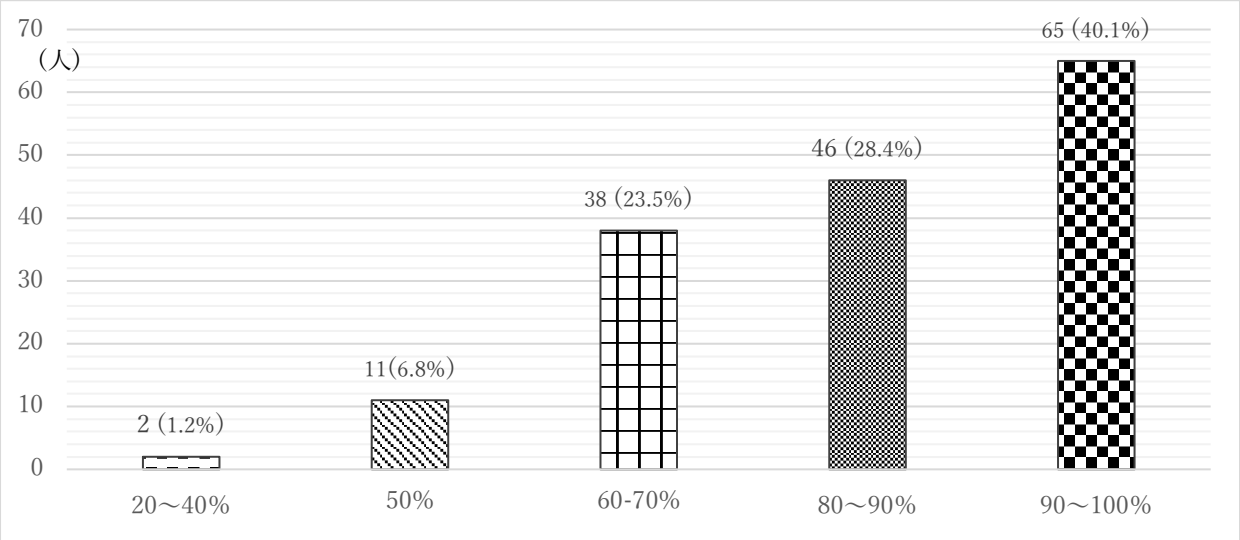
(3) 調査対象者

大阪観光大学別科に在籍する留学生 213 名[1]（2023 年 10 月 30 日時点）のうち 162 名から回答を得た。

3. 結果

(1) 別科内の授業に対する理解度と不自由さの調査結果

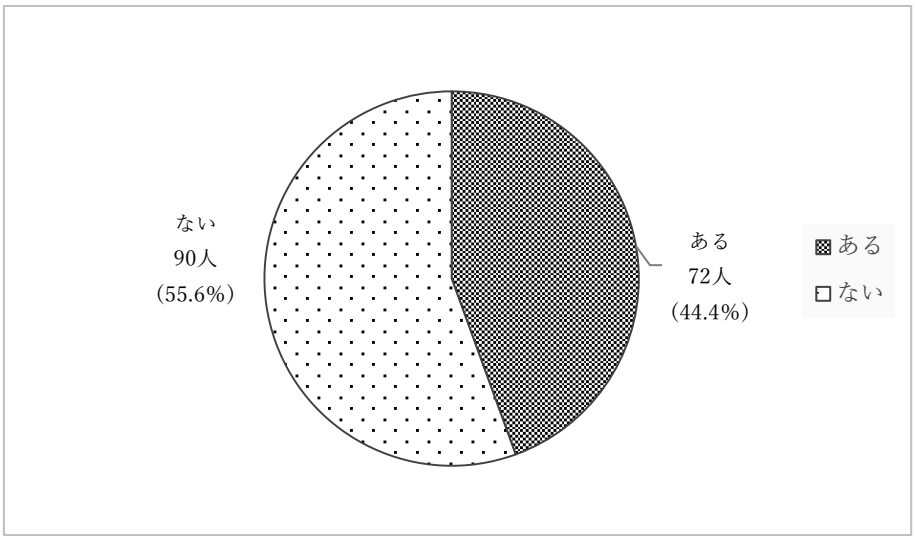
まず別科内の授業において①別科の授業内容への理解度、②別科の授業で、理解できない部分があるか、③別科の授業において四技能のうち特に不自由に感じる技能、④別科の授業での技能別 不自由さの程度 ⑤別科の授業内で不自由を感じる技能別場面について回答を求め、集計を行った。なお、回答者の負担軽減及び、率直な意見を求める目的で、回答項目はあえて必須回答としていない。また、各項目における回答は単独回答のみである。



図－1　別科の授業内容への理解度

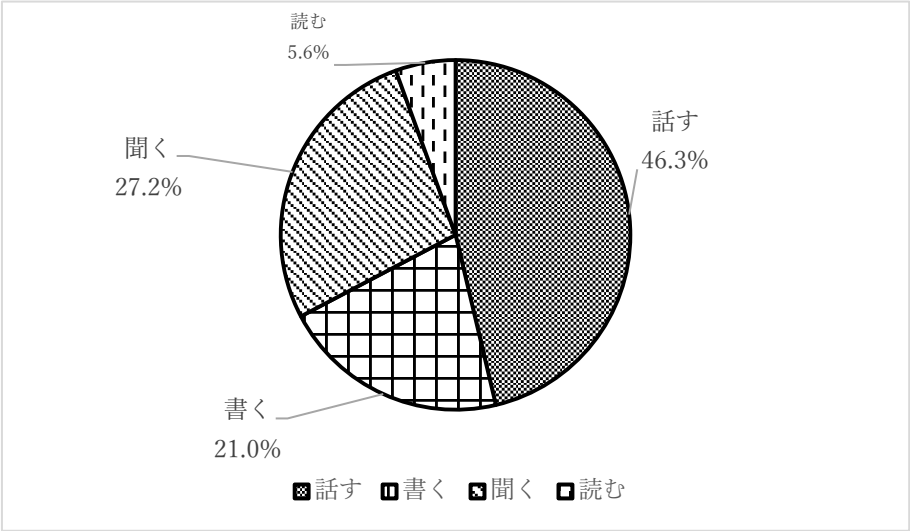
「別科の授業内容への理解度」に対する回答は、「90～100%」が 65 名で全体の 40.1%を占め、続いて「80～90%」が 46 名で 28.4%、「60～70%」が 38 名で 23.5%、「50%」が 11 名で 6.8%、「20～40%」が 2 名で 1.2%であった（図－1）。

[1] 回答者の属性は個人が特定される恐れがあるため記載しないが、当別科の留学生の国籍は中国、ネパール、スリランカ、ミャンマーの学生が在籍しており、約 6 か月から 1 年 6 か月日本語学習をしている。



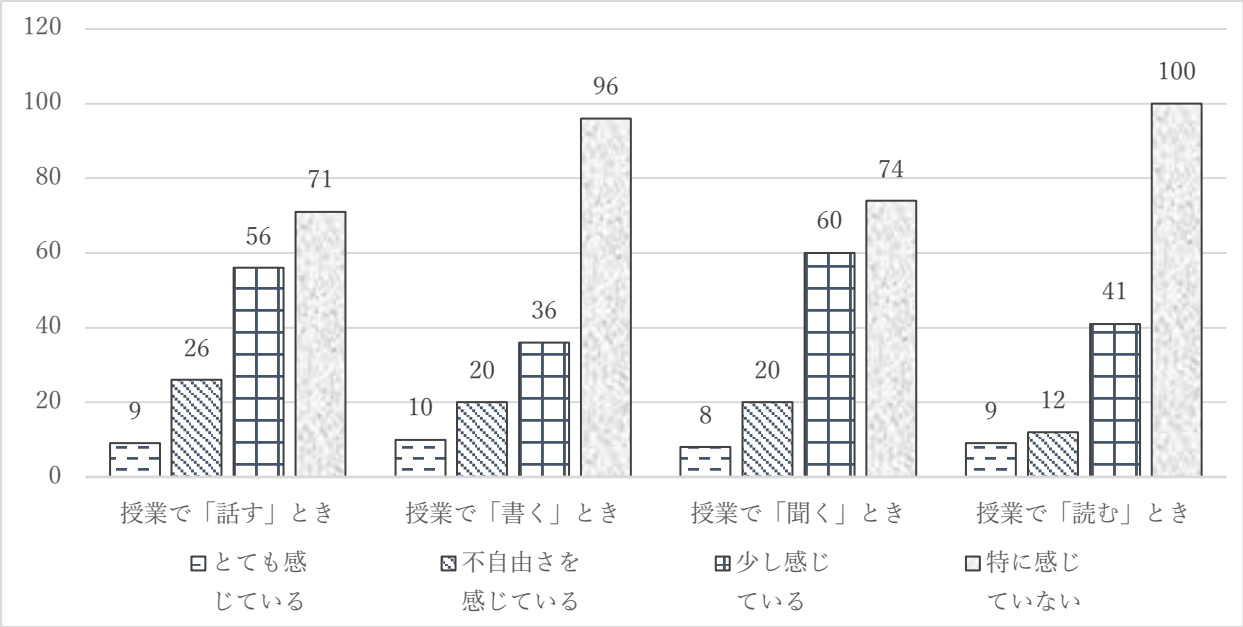
図－2　別科の授業で理解できない部分があるか

「別科の授業で理解できない部分があるか」に対する回答は、「ある」が 72 名で 44.4%、「ない」が 90 名で 55.6%であった（図―2)。



図－3　別科の授業において四技能のうち特に不自由に感じる技能

「別科の授業において四技能のうち特に不自由に感じる技能」に対する回答は、「話す」が 75 名で全体の 46.3%を占め、続いて「聞く」が 44 名で 27.2%、「書く」が 34 名で 21.0%、「読む」が 9 名で 5.6%であった（図－3)。



図－4　別科の授業での技能別 不自由さの程度

「別科の授業での技能別 不自由さの程度」に対する回答は図－4 の通りである。

『授業で「話す」とき』に不自由さを「特に感じていない」が 71 名（43.8%）、「少し感じている」が 56 名（34.6%）「不自由さを感じている」が 26 名（16.0%）、「とても感じている」が 9 名（5.6%）であった。

『授業で「書く」とき』に不自由さを「特に感じていない」が 96 名（59.3%）、「少し感じている」が 36 名（22.2%）、「不自由さを感じている」が 20 名（12.3%）、「とても感じている」が 10 名（6.2%）であった。

『授業で「聞く」とき』に不自由さを「特に感じていない」が 74 名（45.7%）、「少し感じている」が 60 名（37.0%）、「不自由さを感じている」が 20 名（12.3%）、「とても感じている」が 8 名（4.9%）であった。

『授業で「読む」とき』に不自由さを「特に感じていない」が 100 名（61.7%）、「少し感じている」が 41 名（25.3%）、「不自由さを感じている」が 12 名（7.4%）、「とても感じている」が 9 名（5.6%）であった。

表－1　別科の授業内で不自由を感じる場面

話す際			読む際			聞く際			書く際		
自分の意見を言うとき	42	60.0%	漢字を読むとき	2	33.3%	聴解のCDを聞くとき	26	59.1%	作文の授業で文章を作成するとき	14	42.4%
先生に質問するとき	15	21.4%	かな文字を読むとき	2	33.3%	先生の話を聞くとき	11	25.0%	文法の授業で単文を作成するとき	7	21.2%
その他の場面	13	18.6%	読解の文章を読むとき	0	0.0%	友達の発言を聞くとき	3	6.8%	かな文字を書くとき	6	18.2%
			その他の場面	2	33.3%	その他の場面	4	9.1%	漢字の授業で書くとき	4	12.1%
									その他の場面	2	6.1%

「⑤別科の授業内で不自由を感じる技能別場面」に対する回答は表－1 の通りである。場面を選択しない回答者もいるため、技能によって回答数は異なる。表―1 で示した割合は、場面を選択した回答数の中で計算している。「読む際」では、一部回答項目に誤りがあったため、8 名分の回答をカウントしていない。

「話す際」に不自由さを感じる場面は「自分の意見を言うとき」が 42 名（60.0%）、「先生に質問するとき」が

15 名（21.4%）、「その他の場面」が 13 名（18.6%）であった。「その他の場面」の回答のうち、記述欄に「自然な言葉で話せない」という回答が 1 名あった。

「読む際」に不自由さを感じる場面は「漢字を読むとき」が 2 名（33.3%）、「かな文字を読むとき」が 2 名（33.3%）、「読解の文章を読むとき」が 0 名（0.0%）、「その他の場面」が 2 名（33.3%）であった。「その他の場面」で、特定の場面についての記述はなかった。

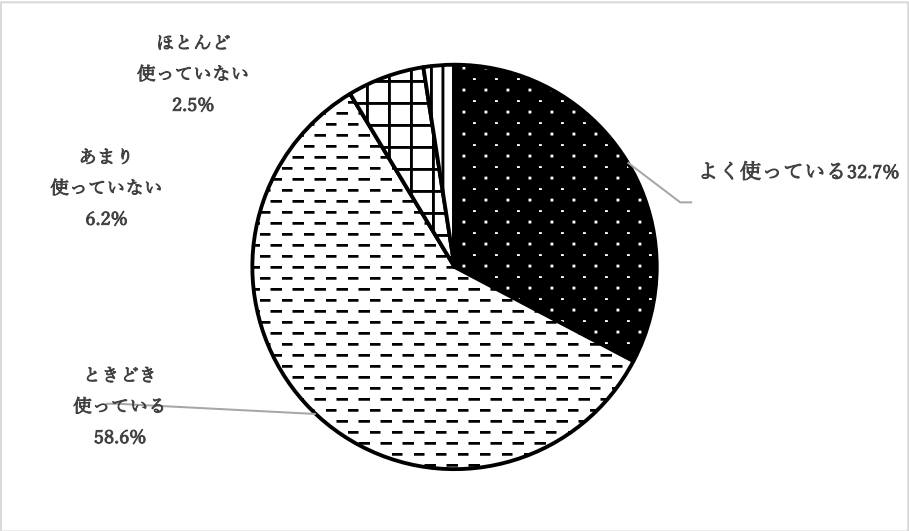
「聞く際」に不自由さを感じる場面は「聴解の CD を聞くとき」が 26 名（59.1%）、「先生の話を聞くとき」が 11 名（25.0%）、「友達の発言を聞くとき」が 3 名（6.8%）、「その他の場面」が 4 名（9.1%）であった。「その他の場面」の回答のうち、記述欄に「听老师的话和 CD（先生の話と CD を聞くこと）」「课上听到的日语都有点困难（授業で聞いた日本語は少し難しかった）」という回答が各 1 名あった。

「書く際」に不自由さを感じる場面は「作文の授業で文章を作成するとき」が 14 名（42.4%）、「文法の授業で単文を作成するとき」が 7 名（21.2%）、「かな文字を書くとき」が 6 名（18.2%）、「漢字の授業で書くとき」が 4 名（12.1%）、「その他の場面」が 2 名（6.1%）であった。「その他の場面」で、特定の場面についての記述はなかった。

(4) 授業以外における日本語の使用頻度と場面毎の技能別日本語の不自由度の調査結果

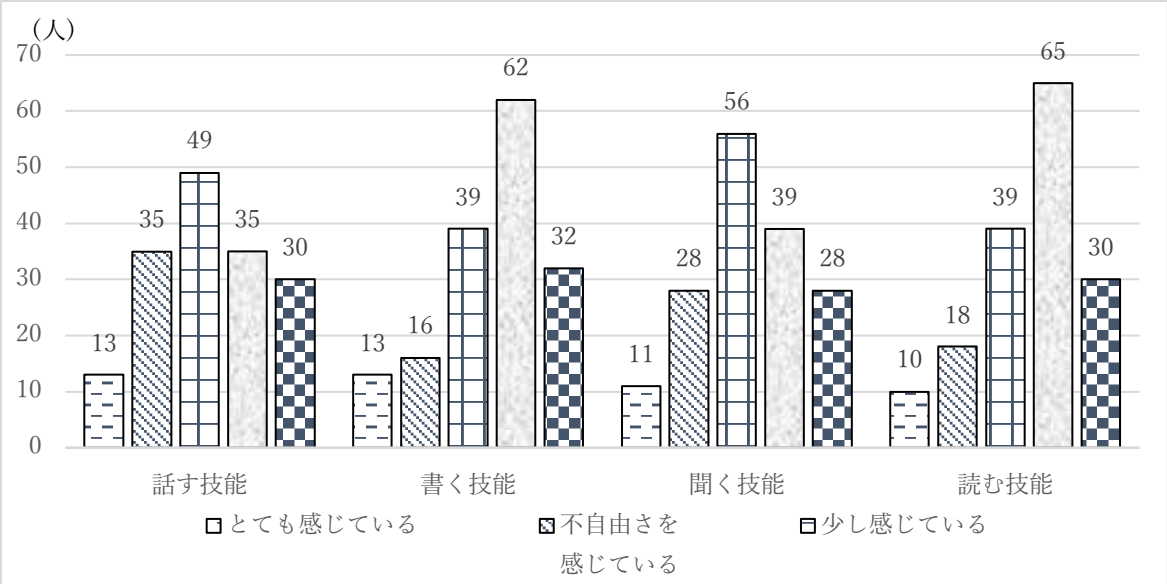
次に別科の授業外における「授業以外での日本語の使用頻度」、また、場面毎の技能別日本語の不自由度の調査として「①大学内で日本人と交流する際の不自由さの程度」、「②近所の日本人と交流する際の不自由さの程度」、「③アルバイト先で日本人と交流する際の不自由さの程度」、「④交通機関における日本人との交流時の不自由さの程度」、「⑤病院受診における日本人との交流時の不自由さの程度」、「⑥買い物や銀行・郵便局等の手続きでの日本人と交流する際の不自由さの程度」「⑦就職や進学活動における日本人との交流時の不自由さの程度」に回答を求め、集計を行った。

更に「その他の場面で日本語の不自由さを感じる場面があるか」と「⑧その他の場面での日本語の不自由さの程度」を技能別に回答を求め、併せて集計を行った。



図－5 授業以外での日本語の使用頻度

「授業以外での日本語の使用頻度」は、「よく使っている」が 53 名（32.7%）、「ときどき使っている」が 95 名（58.6%）、「あまり使っていない」が 10 名（6.2%）、「ほとんど使っていない」が 4 名（2.5%）であった（図―5）。



図－6　大学内で日本人と交流する際の不自由さの程度

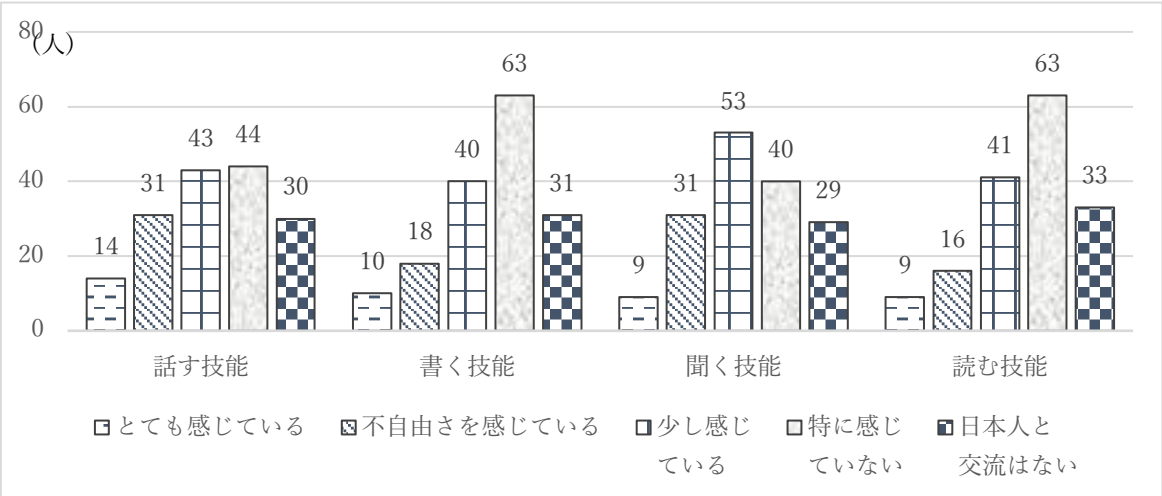
「①大学内で日本人と交流する際の不自由さの程度」に対する回答は図－6 の通りである。

「話す技能」で不自由さを「とても感じている」は 13 名（8.0%）、「不自由さを感じている」が 35 名（21.6%）、「少し感じている」が 49 名（30.2%）、「特に感じていない」が 35 名（21.6%）、「日本人との交流はない」が 30 名（18.5%）であった。

「書く技能」で不自由さを「とても感じている」は 13 名（8.0%）、「不自由さを感じている」が 16 名（9.9%）、「少し感じている」が 39 名（24.1%）、「特に感じていない」が 62 名（38.3%）、「日本人との交流はない」が 32 名（19.8%）であった。

「聞く技能」で不自由さを「とても感じている」は 11 名（6.8%）、「不自由さを感じている」が 28 名（17.3%）、「少し感じている」が 56 名（34.6%）、「特に感じていない」が 39 名（24.1%）、「日本人との交流はない」が 28 名（17.3%）であった。

「読む技能」で不自由さを「とても感じている」は 10 名（6.2%）、「不自由さを感じている」が 18 名（11.1%）、「少し感じている」が 39 名（24.1%）、「特に感じていない」が 65 名（40.1%）、「日本人との交流はない」が 30 名（18.5%）であった。



図－7　近所の日本人と交流する際の不自由さの程度

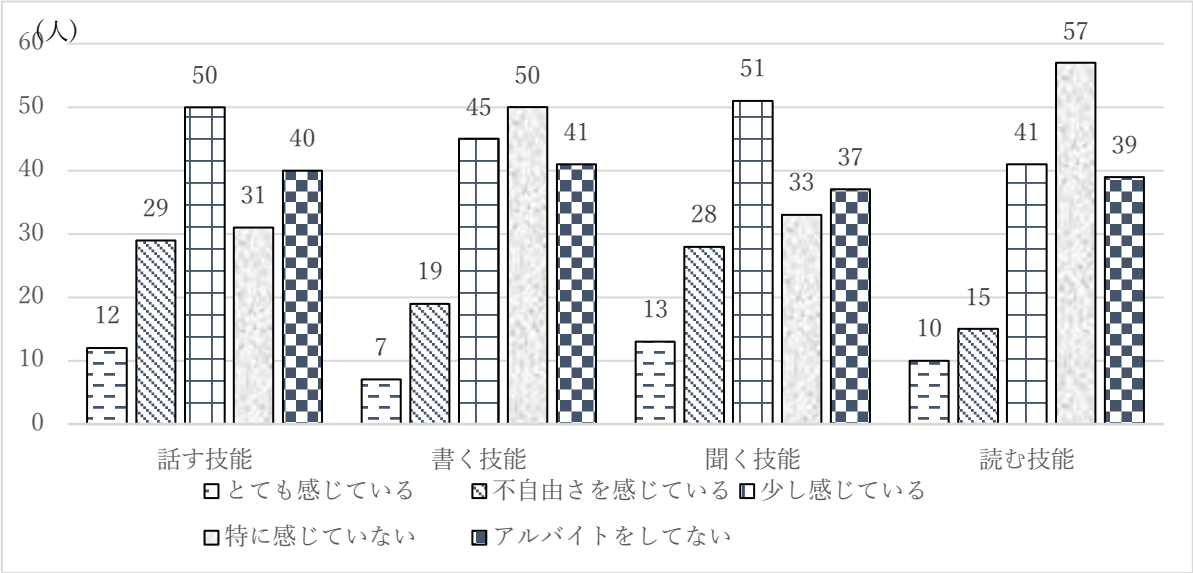
「②近所の日本人と交流する際の不自由さの程度」に対する回答は図－7 の通りである。

「話す技能」で不自由さを「とても感じている」は 14 名（8.6%）、「不自由さを感じている」が 31 名（19.1%）、「少し感じている」が 43 名（26.5%）、「特に感じていない」が 44 名（27.2%）、「日本人との交流はない」が 30 名（18.5%）であった。

「書く技能」で不自由さを「とても感じている」は 10 名（6.2%）、「不自由さを感じている」が 18 名（11.1%）、「少し感じている」が 40 名（24.7%）、「特に感じていない」が 63 名（38.9%）、「日本人との交流はない」が 31 名（19.1%）であった。

「聞く技能」で不自由さを「とても感じている」は 9 名（5.6%）、「不自由さを感じている」が 31 名（19.1%）、「少し感じている」が 53 名（32.7%）、「特に感じていない」が 40 名（24.7%）、「日本人との交流はない」が 29 名（17.9%）であった。

「読む技能」で不自由さを「とても感じている」は 9 名（5.6%）、「不自由さを感じている」が 16 名（9.9%）、「少し感じている」が 41 名（25.3%）、「特に感じていない」が 63 名（38.9%）、「日本人との交流はない」が 33 名（20.4%）であった。



図－8　アルバイト先で日本人と交流する際の不自由さの程度

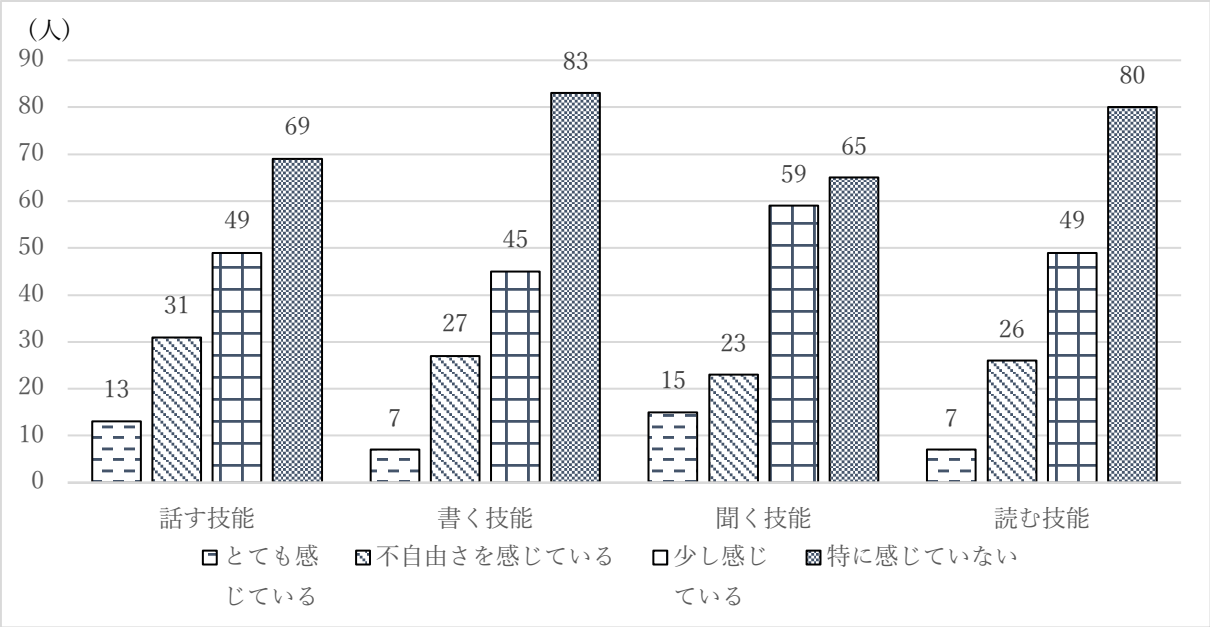
「③アルバイト先で日本人と交流する際の不自由さの程度」に対する回答は図－8 の通りである。

「話す技能」で不自由さを「とても感じている」は 12 名（7.4%）、「不自由さを感じている」が 29 名（17.9%）、「少し感じている」が 50 名（30.9%）、「特に感じていない」が 31 名（19.1%）、「アルバイトをしてない」が 40 名（24.7%）であった。

「書く技能」で不自由さを「とても感じている」は 7 名（4.3%）、「不自由さを感じている」が 19 名（11.7%）、「少し感じている」が 45 名（27.8%）、「特に感じていない」が 50 名（30.9%）、「アルバイトをしてない」が 41 名（25.3%）であった。

「聞く技能」で不自由さを「とても感じている」は 13 名（8.0%）、「不自由さを感じている」が 28 名（17.3%）、「少し感じている」が 51 名（31.5%）、「特に感じていない」が 33 名（20.4%）、「アルバイトをしてない」が 37 名（22.8%）であった。

「読む技能」で不自由さを「とても感じている」は 10 名（6.2%）、「不自由さを感じている」が 15 名（9.3%）、「少し感じている」が 41 名（25.3%）、「特に感じていない」が 57 名（35.2%）、「アルバイトをしてない」が 39 名（24.1%）であった。



図－9　交通機関における日本人との交流時の不自由さの程度

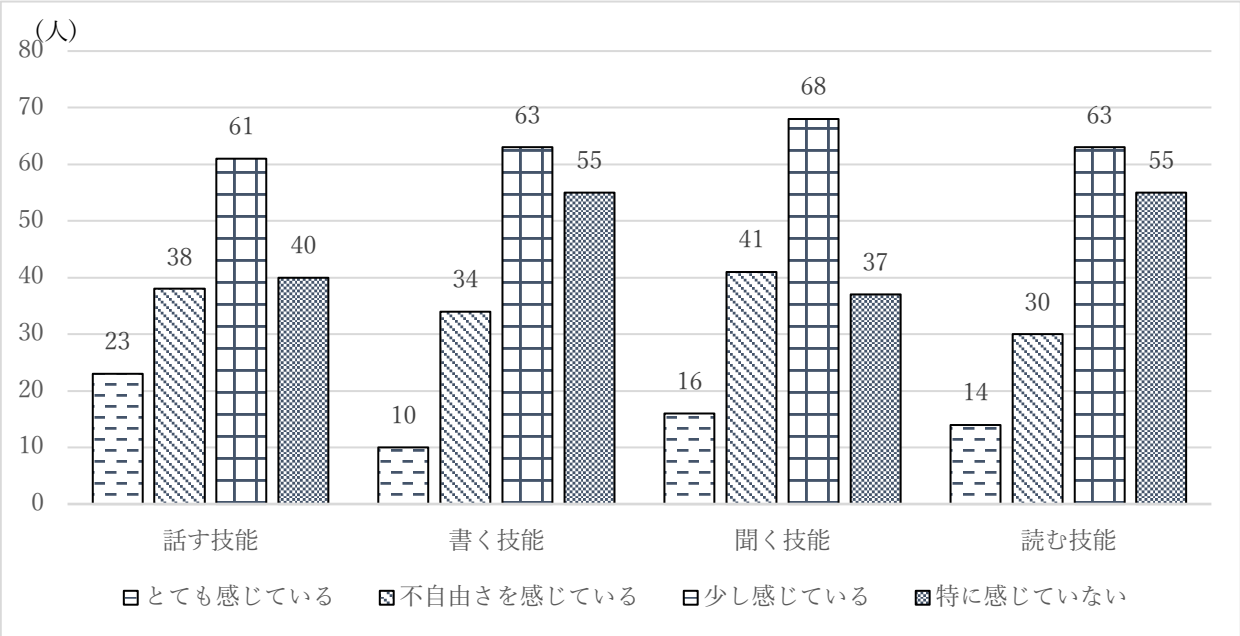
「④交通機関における日本人との交流時の不自由さの程度」に対する回答は図－9 の通りである。

「話す技能」で不自由さを「とても感じている」は 13 名（8.0%）、「不自由さを感じている」が 31 名（19.1%）、「少し感じている」が 49 名（30.2%）、「特に感じていない」が 69 名（42.6%）であった。

「書く技能」で不自由さを「とても感じている」は 7 名（4.3%）、「不自由さを感じている」が 27 名（16.7%）、「少し感じている」が 45 名（27.8%）、「特に感じていない」が 83 名（51.2%）であった。

「聞く技能」で不自由さを「とても感じている」は 15 名（9.3%）、「不自由さを感じている」が 23 名（14.2%）、「少し感じている」が 59 名（36.4%）、「特に感じていない」が 65 名（40.1%）であった。

「読む技能」で不自由さを「とても感じている」は 7 名（4.3%）、「不自由さを感じている」が 26 名（16.0%）、「少し感じている」が 49 名（30.2%）、「特に感じていない」が 80 名（49.4%）であった。



図－10　病院受診における日本人との交流時の不自由さの程度

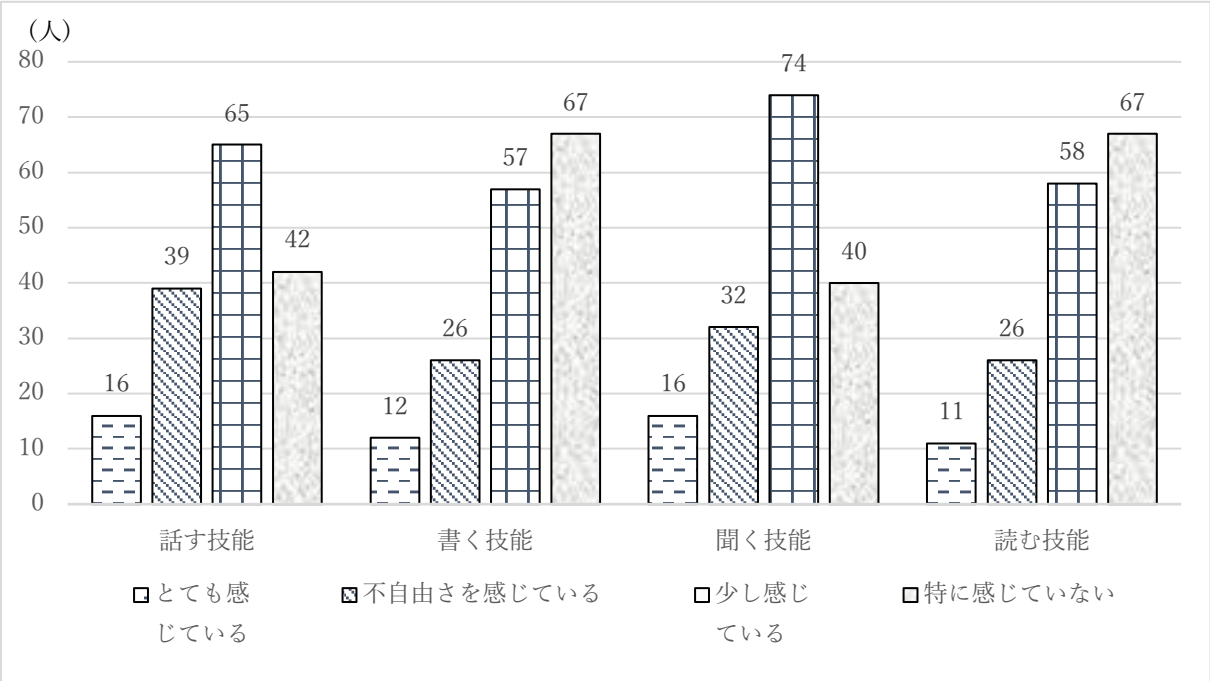
「⑤病院受診における日本人との交流時の不自由さの程度」に対する回答は図－10 の通りである。

「話す技能」で不自由さを「とても感じている」は 23 名（14.2%）、「不自由さを感じている」が 38 名（23.5%）、「少し感じている」が 61 名（37.7%）、「特に感じていない」が 40 名（24.7%）であった。

「書く技能」で不自由さを「とても感じている」は 10 名（6.2%）、「不自由さを感じている」が 34 名（21.0%）、「少し感じている」が 63 名（38.9%）、「特に感じていない」が 55 名（34.0%）であった。

「聞く技能」で不自由さを「とても感じている」は 16 名（9.9%）、「不自由さを感じている」が 41 名（25.3%）、「少し感じている」が 68 名（42.0%）、「特に感じていない」が 37 名（22.8%）であった。

「読む技能」で不自由さを「とても感じている」は 14 名（8.6%）、「不自由さを感じている」が 30 名（18.5%）、「少し感じている」が 63 名（38.9%）、「特に感じていない」が 55 名（34.0%）であった。



図－11　買い物や銀行・郵便局等の手続きでの日本人と交流する際の不自由さの程度

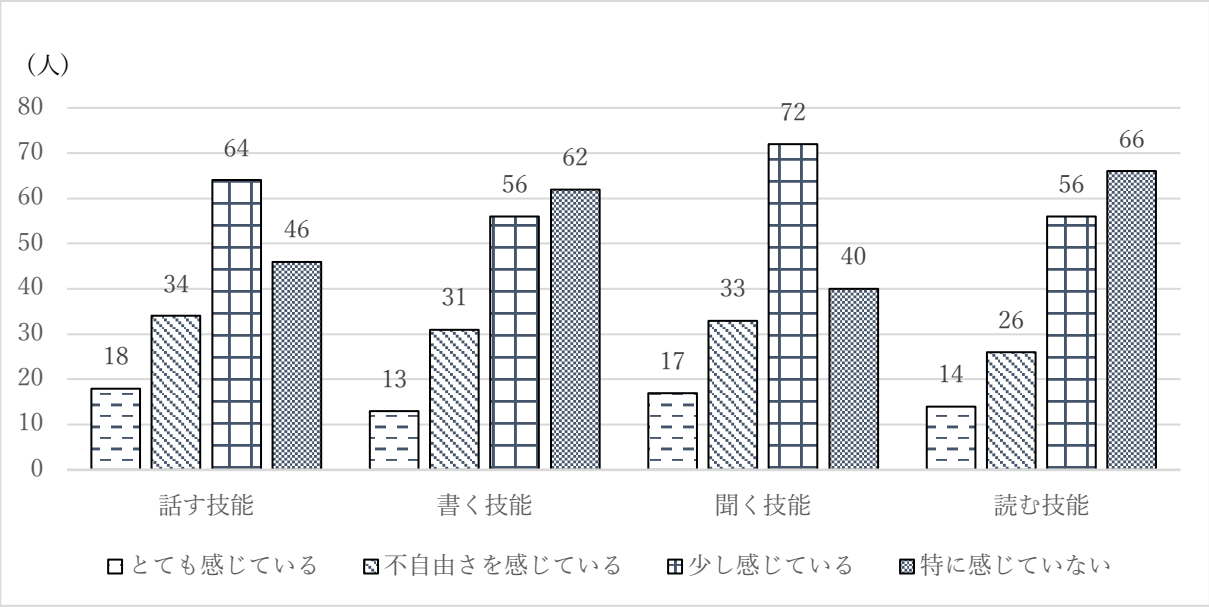
「⑥買い物や銀行・郵便局等の手続きでの日本人と交流する際の不自由さの程度」に対する回答は図－11 の通りである。

「話す技能」で不自由さを「とても感じている」は 16 名（9.9%）、「不自由さを感じている」が 39 名（24.1%）、「少し感じている」が 65 名（40.1%）、「特に感じていない」が 42 名（25.9%）であった。

「書く技能」で不自由さを「とても感じている」は 12 名（7.4%）、「不自由さを感じている」が 26 名（16.0%）、「少し感じている」が 57 名（35.2%）、「特に感じていない」が 67 名（41.4%）であった。

「聞く技能」で不自由さを「とても感じている」は 16 名（9.9%）、「不自由さを感じている」が 32 名（19.8%）、「少し感じている」が 74 名（45.7%）、「特に感じていない」が 40 名（24.7%）であった。

「読む技能」で不自由さを「とても感じている」は 11 名（6.8%）、「不自由さを感じている」が 26 名（16.0%）、「少し感じている」が 58 名（35.8%）、「特に感じていない」が 67 名（41.4%）であった。



図－12　就職や進学活動における日本人との交流時の不自由さの程度

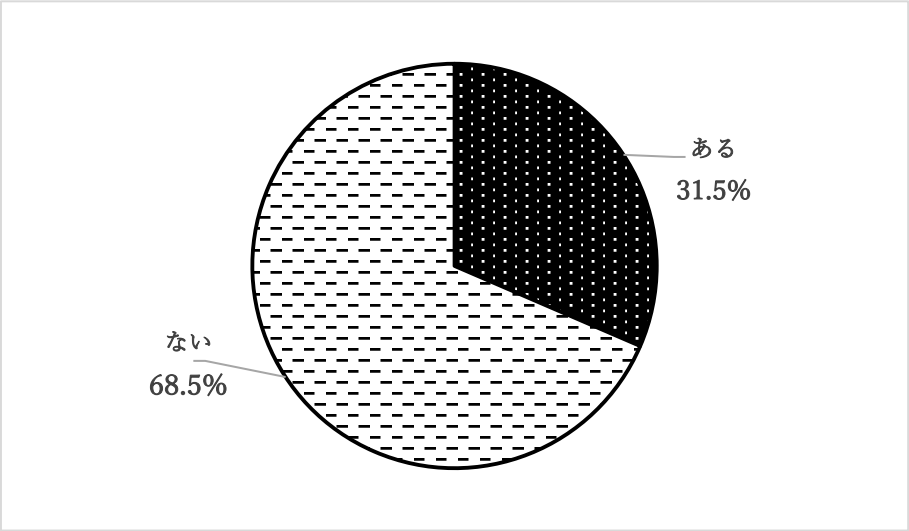
「⑦就職や進学活動における日本人との交流時の不自由さの程度」に対する回答は図－12 の通りである。

「話す技能」で不自由さを「とても感じている」は 18 名（11.1%）、「不自由さを感じている」が 34 名（21.0%）、「少し感じている」が 64 名（39.5%）、「特に感じていない」が 46 名（28.4%）であった。

「書く技能」で不自由さを「とても感じている」は 13 名（8.0%）、「不自由さを感じている」が 31 名（19.1%）、「少し感じている」が 56 名（34.6%）、「特に感じていない」が 62 名（38.3%）であった。

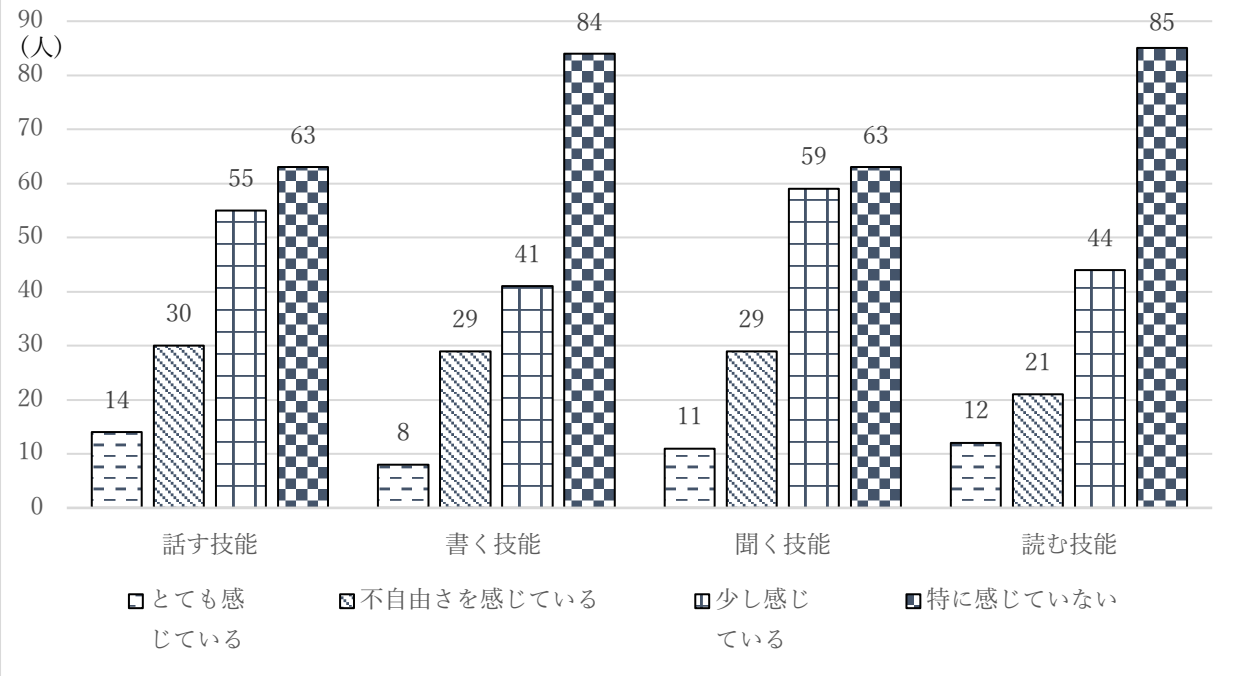
「聞く技能」で不自由さを「とても感じている」は 17 名（10.5%）、「不自由さを感じている」が 33 名（20.4%）、「少し感じている」が 72 名（44.4%）、「特に感じていない」が 40 名（24.7%）であった。

「読む技能」で不自由さを「とても感じている」は 14 名（8.6%）、「不自由さを感じている」が 26 名（16.0%）、「少し感じている」が 56 名（34.6%）、「特に感じていない」が 66 名（40.7%）であった。



図－13　その他の場面で日本語の不自由さ感じる場面があるか

「その他の場面で日本語の不自由さ感じる場面があるか」が「ある」が 51 名（31.5%）、「ない」が 111 名（68.5%）であった（図―13）。



図－14　その他の場面での日本語の不自由さ

「⑧その他の場面での日本語の不自由さの程度」に対する回答は図－14 の通りである。なお、「特に感じていない」と「他に不自由さを感じる場面はない」の回答項目は、同一の内容と判断し、回答数を合算し、「特に感じていない」としている。

「話す技能」で不自由さを「とても感じている」は 14 名（8.6%）、「不自由さを感じている」が 30 名（18.5%）、「少し感じている」が 55 名（34.0%）、「特に感じていない」が 63 名（38.9%）であった。

「書く技能」で不自由さを「とても感じている」は 8 名（4.9%）、「不自由さを感じている」が 29 名（17.9%）、「少し感じている」が 41 名（25.3%）、「特に感じていない」が 84 名（51.9%）であった。

「聞く技能」で不自由さを「とても感じている」は 11 名（6.8%）、「不自由さを感じている」が 29 名（17.9%）、「少し感じている」が 59 名（36.4%）、「特に感じていない」が 63 名（38.9%）であった。

「読む技能」で不自由さを「とても感じている」は 12 名（7.4%）、「不自由さを感じている」が 21 名（13.0%）、「少し感じている」が 44 名（27.2%）、「特に感じていない」が 85 名（52.4%）であった。

4.　考察

(1)　別科内の授業に対する理解度と不自由さの調査結果について

まず、「日本語の授業で話すときの不自由さの程度」については、「特に感じていない」が 71 名で 43.8%と最も多いものの、「とても感じている」、「不自由さを感じている」、「少し感じている」、の 3 つの回答を纏めて「不自由さを感じている回答」と括るとすれば 56.2%となり、「特に感じていない」を上回ることとなる。つまり、各回答を個別に見た場合と、傾向として、不自由さを感じていない、もしくは感じているという 2 つに分けた場合とで、概観として半数以上の学生は何らかの不自由さを感じているということを意味する。

次に、「日本語の授業で書くときの不自由さの程度」については、「特に感じていない」が 96 名で 59.3%と最も多い。 日本語学習者にとって、漢字なども書く際に困難となり得るが、「特に感じていない」が半数以上という結果は、漢字圏学生が多いことも要因ではないかと考えられる。中国人学生が半数以上を占める当別科からすれば納得できる結果である。ただ、今回の分析において、漢字圏、非漢字圏学生と分けての分析は行っていない。

「日本語の授業で読むときの不自由さの程度」については、「特に感じていない」が 100 名で 61.7%と最も多い。この結果は、「日本語の授業で書くときの不自由さの程度」における結果と、4 つの質問項目のパーセンテージの比率も類似している。

また、「⑤別科の授業内で不自由を感じる技能別場面」については、話す、が 70 名で 46.3%と最も多く、これは特に口頭能力における不自由さを感じているということを意味する。さらに、書くも 33 名で 21%と高いことから、聞くおよび読むといった技能ではなく、話すおよび書くという技能に不自由さを感じていることが窺える。

(2) 授業以外における日本語の使用頻度と場面毎の技能別日本語の不自由度の調査結果

「学内の日本人との交流時における話す技能の不自由さの程度」については、「少し感じている」が最も多いという結果は、別科の授業で話すときの不自由さの程度の結果における特に「感じていない」が最も多いという結果と、いずれも同じく話すことに関するものである。しかし、その対象が日本語教員やその学生ではなく、大学内の日本人との交流時になるとより不自由さを感じているとすれば、ごく自然なことではあるが日本語教育機関内外で用いられる日本語の難易度に差があり、このことが不自由さに繋がっているということが考えられる。

また、「病院受診」では「とても感じている」～「少し感じている」人が 4 技能とも多いことから、他と比べて不自由を感じていると言えるのではないか。「近所の日本人」「アルバイト先」「買い物や銀行・郵便局等の手続き」については、「話す」「聞く」で不自由を感じている割合が高いと考えられる。

なお、上述の「（1）別科内の授業に対する理解度と不自由さの調査結果について」における「日本語の授業で話すときの不自由さの程度」の考察と同様に考えれば、授業外の場面においても、場面によって、日本語の理解運用において不自由さを感じていると言える。

5. おわりに

当別科における外国人留学生へのアンケートをもとに、学習場面や日常場面にどのような点で不自由さを感じ、躓きが現れているのかが、少しずつではあるが見えてきた。

本調査の結果から、当別科生たちは特に授業内の場面や状況においては、概ね「話す」「聞く」といった技能に不自由さを感じている一方で、「読む」「書く」には概ね不自由さを感じていないということがわかった。

今後の課題としては、前項の考察での「日本語の授業で書くときの不自由さの程度」について、特に感じていない、が最も多かったことに対して、当別科に中国人留学生が多いからであろうという理由を挙げたが、本調査においては実際に漢字圏学生ならびに非漢字圏学生と分けての分析は行えていなかった。そのため、今後、同様の調査を行う際は、漢字圏学生ならびに非漢字圏学生の回答項目を加え分析する必要があるだろう。

今回のアンケート結果を基に、今後の当別科におけるカリキュラムならびに教材については、4 技能における躓きに着目し、口頭表現における場面シラバスの導入、および機能的には要求に関する項目の導入を行うなどし、適切な学習支援を行っていきたいと考えている。

【引用・参考文献】

大串兎紀夫・大竹恵美子・住原則也・中祢勝美・前田均(2001)「調査報告『留学生日本語教育に関するアンケート』」『外国語教育：理論と実践』27 巻、pp.51-67

佐伯胖(1978)『イメージ化による知識と学習』東洋館出版社

独立行政法人 日本学生支援機構（JASSO）(2022)「令和 3 年度 私費外国人留学生生活実態調査」
https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/seikatsu/data/2021.html（最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日）

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)（2022)「2021（令和 3 ）年度外国人留学生在籍状況調査結果 」
https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/data/2021.html（最終閲覧日 2023 年 11 月 27 日）